



働き方対談

文化・芸術 フリーランスの働くルールと地位向上を!

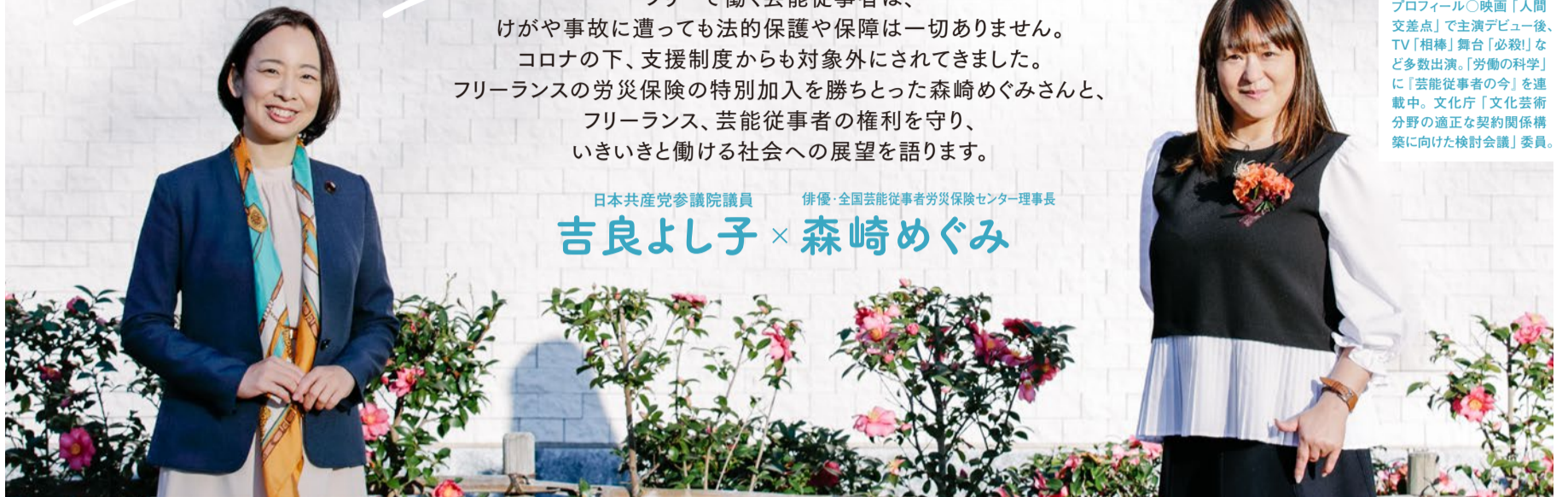
フリーで働く芸能従事者は、
けがや事故に遭っても法的保護や保障は一切ありません。
コロナの下、支援制度からも対象外にされてきました。
フリーランスの労災保険の特別加入を勝ちとった森崎めぐみさんと、
フリーランス、芸能従事者の権利を守り、
いきいきと働ける社会への展望を語ります。

日本共産党参議院議員

俳優・全国芸能従事者労災保険センター理事長

吉良よし子 × 森崎めぐみ

プロフィール○映画「人間交差点」で主演デビュー後、TV「相棒」舞台「必殺」など多数出演。「労働の科学」に「芸能従事者の今」を連載中。文化庁「文化芸術分野の適正な契約関係構築に向けた検討会議」委員。



コロナでの苦境、「この状況に殺される!」

吉良 森崎さんには、コロナの前から芸能従事者のみなさんのハラスメントの問題などの声や実態を届けていただきました。やはり、大変な事態になったのがコロナですね。いちばん最初にイベント自粛要請が出て、真っ先に芸能従事者やイベント関係のみなさんが、多大な影響を受けましたよね。

森崎 コロナが出てすぐ、イベントや公演の自粛要請が2020年2月26日でした。キャンセル料が支払われない状態が続いて、仕事と生活費がなくなりました。

アンケートで「コロナじゃなくて、この状況に殺されます」という声が多かったです。自粛要請直後の3月のアンケートでは「死」という言葉が多くて、もう、気が気ではありませんでした。



声をあげ、支援制度つくらせた

吉良 「(追い詰められて)この状況に殺される」深刻です。だから「補償が必要だ」と、みなさんが声を上げてきたわけですね。私もその声を受けて、2020年3月に国会で、「文化庁こそ、補償に動くべき」と質問しましたが、大臣は及び腰でした。

森崎 海外の支援の対象は、真っ先にメディアとフリーランスでした。生活費の支援が出たんです。日本はそういう発想は全く見られなくて、その結果、私たち当事者の多くは、ただただ困窮していただけでした。

吉良 本当に海外と比べると日本の支援の薄さが、くっきりと浮かび上がる事態でしたよね。けれど、その全くゼロだったとこ

ろから、持続化給付金に始まり、文化庁にも継続支援事業という支援制度をつくらせることができたことは、この日本においては画期的でした。

森崎 嬉しかったです!

吉良 文化芸術の担い手のみなさんが、結束して声を上げたというのが相当な力になったと思います。

まだまだ不十分。もっと実態をみてほしい

森崎 ありがとうございます。それでも力不足で、文化庁に継続支援事業のときに、公演できない間の自主的なリハーサルを支援対象に認めてほしいとお願いしたのですが、認められませんでした。

吉良 そこですね。私も国会で、「生活が継続できる支援を」と質問してきたんですが、結局出されたのは、「イベントをしてください。その経費を補助します」という支援でしかなかったわけです。

森崎 それは本当に残念でした。不要不急といわれたショックもありました。

労災に入れない!契約書がない!フリーランスの働き方の改善を

吉良 日本において、なぜ芸能関係、アーティストのみなさんがここまで追い詰められてしまったのか、ということであれば、フリーランスの働き方の問題があると思います。

森崎 私は19歳から俳優の仕事をしてきましたが、雇用されたことはないです。この仕事は、ほとんどみんなフリーランスです。

吉良 その道を進もうと決めた瞬間に、労働者になるという道は絶たれる、ということなんですね。選んでみたら、最低賃金すら保障されず、労災すら認められない世界だった、という不合理さですね。国保の傷病手当も対象外で、放置されている。

森崎 そうです。労働者ということを初めて聞いたときに、「そんなに守られてるの?!けがして休んだらお金もらえる?!どうしてそうなの?」と思いました。政府の労災保険すら知らない人もいますから。

吉良 そういう意味では、昨年、フリーラ

ンスに、労災保険の特別加入が認められたのは、一歩前進だし、とても大事な取り組みだったと思います。

森崎 労基署への通達にも被災者の方が労災申請したときに、保険が適用されやすいように、具体的な業務の内容をお伝えできたのが、とてもありがたかったです。そういう意味では本当に一歩前進というか、働き方をお示しできた一歩かと思っています。

吉良 そして、いま取り組まれているのが契約書ですね。多くのアーティストのみなさんが契約書すら交わさず働いているというのも衝撃です。

森崎 文化庁の「文化芸術分野の適正な契約関係構築に向けた検討会議」ですが、まず契約関係の明確化に取り組む形です。

吉良 “適正な契約関係”がないとは、いったい何をもとに働いていたんでしょうか、ということですね。

森崎 そうですね。NHKに出演する時には、二次利用料や配信の料金がクリアに計算された明細書をいただいている、ちゃんと支払いしてくださっていますが、残念ながらすべてがそうではありません。

吉良 働く人であれば守られる、当然の権利をルール化するというのは、絶対に欠かせないことだと思っています。それを実現するためにも、この契約書で契約関係をちゃんと見直すということが本当に大事なことです。ぜひ実らせていきたいですね。

アーティストの地位向上を

吉良 アーティストのみなさんをめぐっては、労働者性の問題と同時に、本当にこの国には、文化そのものが位置づいていないことも改めて実感しているんです。フリーランスという働き方と同時に、文化芸術に携わっているみなさんの地位があまりにも低すぎるという問題があります。

すでに、ユネスコは1980年に「芸術家の地位に関する勧告」を出している。これ本当に大事なことが書いてありますよね。

森崎 そうなんです。その勧告の第6条に、「芸術活動を、労働としてきちんと認める

こと、そのうえで、特殊な労働だということも把握して立法し、保護せよ」ということが書いてあります。今やっと、私たちが言い始めているのかなというところです。

吉良 岸田政権のコロナ経済対策でも、一応、文化芸術支援も位置づけられてはいますが、位置づけが観光立国のための文化と、一面的な評価になっていますよね。そうではなくて、芸術文化そのものに、大いなる価値がある、と語る必要がある。本当にそういうところから、この国の根本を切り替えたいと、つくづく思います。

森崎 そうですね、文化のある国にこそ観光したいと思うのではないのでしょうか。



参院選で、政治を変えよう

吉良 いよいよ、今年は参院選。この選挙で国会の力関係を変えながら、フリーランスの働く権利をちゃんと認め、文化が豊かに発展する、そういう国、政治をぜひ一緒につくりたいと思います。

二人 がんばりましょう。

国会でも質問しました フリーランスにも 傷病手当を

被用者に限定している国民健康保険の傷病手当金のコロナ感染症特例支給について、フリーランス、個人事業主、自営業者にも対象を拡大するよう求めました。



4月26日
参院行政監視小委員会

今年こそ

“聞かない”政治を終わらせる

昨年、新たに発足した岸田政権。

首相は「聞く力」が特技だと言いますが、そうなのか？

11月、COP26の会場で「石炭火力をなくして」という若者の声を首相が無視したとの報道に目を疑いました。

12月、臨時国会では、

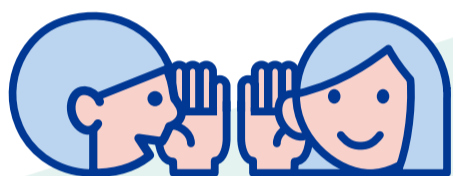
「“新自由主義の転換”と言うなら、派遣労働を増やすようなこれまでの規制緩和路線を変えるのか？」などの質問に最後まで、まっすぐ答えなかった首相。

「私たちの意見を聞かないで進めるのはおかしい」
国主導で進められている地元の学校統廃合に
意見する子どもたちの声を、私は聞きました。

目の前の声を無視する姿勢は、岸田政権も変わりません。
しかも、国民が求めている改憲めざしてまっしぐら。

「聞かない」危険な政治は、今年こそ終わらせる。
今年の参院選は正念場です。

吉良よし子



子どもの声を聴く 政治をつくろう

日本共産党の「**校則アンケート**」の結果が、**政府会議の正式資料に!**

12月8日、日本共産党校則問題プロジェクトの集めた「校則アンケート」(2021年4月15日~6月30日、1453名の中高生が回答)結果を文部科学省へ手渡しました。文科省は、アンケート結果を、現在おこなわれている生徒指導に関する政府会議の正式資料として配布すると約束しました。「監視されているようで窮屈」など、アンケートに寄せられた子どもたちの声が政府会議に届きます。



総選挙政策を 高校生と語る

10月26日、都内私立高校社会科学部のみなさんが、事務所を訪問。衆院選挙の政策等について懇談し、質問に回答しました。



学校統廃合 **子どもの意見を無視しないで**

12月13日、目黒区がすすめるようとしている学校統廃合について、地元の中学生、高校生、大学生から意見を聞きました。

当事者である
子どもの意見を
聞いてほしい

大規模化で、
どんな良いことが
あるのか、
よくわからない

支援級に通っていた。
統合されると
特別なニーズの子ども
の居場所がなくなるのでは？

小規模の学校は
安心して発言できた。
大人数だと
そうはいかないのでは？



日本共産党は参議院^{全国}比例代表で5議席をめざします



山添
吉良

トークセッション 始めています!



12月4日 有楽町駅前

12月4日は有楽町駅で「男女の賃金格差から考えるジェンダー」、12月12日には新宿駅で「岸田首相との国会論戦『新しい資本主義』を斬る」をテーマに、「山添・吉良トークセッション」をおこないました。

有楽町

吉良

男女の賃金格差は
DVなどの温床になっています

山添

ケア労働の賃上げなど、
政治の力で格差をなくすことは可能です

吉良

『痴漢』は性暴力です。
なのに、性暴力だと認識されていないことが
最大の問題。

山添

人を傷つけたら問答無用で『傷害罪』。
性行為だけ必死の抵抗を求めるのは
女性の意思を軽んじている

新宿

吉良

岸田首相の
“新しい資本主義”は大企業応援。
『賃上げ』は不可能ですね

山添

今の最低賃金では生活できないことを
厚労大臣に認めさせた。
最賃1500円の実現へ、あきらめません

双方向で
トーク

質問箱を設置し、
その場で、寄せられ
た質問に答えました。